

非接触コミュニケーション用の iPad70台を Jamf Proで一元管理しています

医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院様

Appleデバイス管理ソリューション Jamf Pro導入事例



「救急患者を断らない」がモットーの医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院(以下、湘南鎌倉総合病院)は、年間1万4000人もの救急搬送を受け入れる日本屈指の高度急性期病院です。現在は地域との連携・協力のもと、新型コロナウイルスによる医療崩壊を防ぐための現場起点の医療体制「神奈川モデル・ハイブリッド版」の整備を進め、新型コロナウイルス感染症の可能性がある方々を積極的に受け入れています。

今回、湘南鎌倉総合病院では、新型コロナウイルス感染症の患者様と医療スタッフとの「非接触コミュニケーション」を図るため、JamfのAppleデバイス管理ソリューション Jamf Proで管理されたiPad70台を導入。そのJamf Proの導入背景と経緯、効果について、湘南鎌倉総合病院 臨床研修センター課長補佐 具伊 和之様に詳しく伺いました。

iPad&Jamf Proの導入は患者様と直接対面できない状況の発生から

● iPadを導入した背景

新型コロナウイルス感染症で入院されている患者様と直接対面できないことがiPadを導入した理由です。当初は患者様と治療にあたる医療スタッフの間にアクリル板を設置していましたが、ご存知の通り、新型コロナウイルスは感染力が強いため、やはり距離が必要だということになり、遠隔で患者様と対面できるタブレットを導入し「非接触コミュニケーション」を図る運びとなりました。

2020年4月末、当院で20床ほどの仮設専用病床を設置した際に25台導入し、その後、COVID-19重点医療機関として180床の仮設



医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院様 プロフィール

鎌倉市の地域住民による「総合病院を実現させる会」を主体とした約8万6000人の署名活動をもとに1988年に開設。地域医療、先端医療の提供を目的とする地域の中核病院としての役割を担っている。医療従事者の教育施設として、厚生労働省によって臨床研修指定病院、外国医師臨床修練指定病院に指定。2010年9月1日に、鎌倉市山崎から現在の岡本に新築移転。

- ・ 所在地: 〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370番
- ・ 設立: 昭和63年11月
- ・ 許可病床数: 658床(稼働病床629床)、救命救急センター 20床、ICU 8床、LDR 3床、無菌個室5床
- ・ 職員数: 1,878名(2020年4月1日現在)
- ・ <https://www.skgh.jp/>

専用病床の管理を県から受託して45台、合計70台のiPadを導入しています。

● タブレットにiPadを選択した理由

当院ではコロナ禍以前から各病棟に1台程度iPadを導入していましたから、そもそも障壁は高くありませんでした。また、iPhoneなどで日常的にiOSに触れているスタッフが多いこともあり操作については心配はありませんでしたが、実際、リーダークラスの看護師を集めて行ったiPad導入研修は15分程度で終了。現在まで使い勝手に関して大きなトラブルは発生していません。

● Jamf Proを導入した背景

新型コロナウイルス感染症の患者様の「非接触コミュニケーション」、これが最大のテーマでしたから、実のところ導入することだけで頭が一杯でした。とはいえ、最初に導入した25台という数は少なくありません。iPad一台ずつアプリをインストールするというのはキitting効率が悪く、導入後の管理という問題もありました。

そんなとき、紹介されたのがJamfのAppleデバイス管理ソリューション Jamf Proでした。前述した問題の解決にはMDM(Mobile Device Management)ツールが必要だと感じていたので、ここは渡りに船と思い、Jamf Proの導入を決めました。

セッティングは驚くほど短期間で完了

● Jamf Proのセッティングについて

Jamf Proのセッティングはもちろん、ビデオ通話AppなどのAppインストールや制限設定などを、とても短期間のうちに対応することができました。手を煩わす必要がなかっただけでなく、患者様向けiPadと医療スタッフ向けiPadを簡単に切り替えられるデバイス設定は秀逸だと思いました。

● デバイス設定について

患者様向けと医療スタッフ向けのデバイス設定は、プルダウンメニューで簡単に切り替えることができます。しかも、患者様向けと医療スタッフ向けとでは壁紙が違っており、簡単に識別できます。デバイス設定はJamfによる提案でしたが、本当に便利で助かっています。

先日もある部門から1台iPadがほしいと言われたので、患者様向けのiPadを医療スタッフ向けに切り替えました。このとき、リクエストを受けてから設定完了までに要した時間はたったの10分。「すごく早い」と高評価でした。

Jamf Proの導入効果はその他にも

● Jamf Proの便利な機能

< デバイスの台帳管理が可能 >

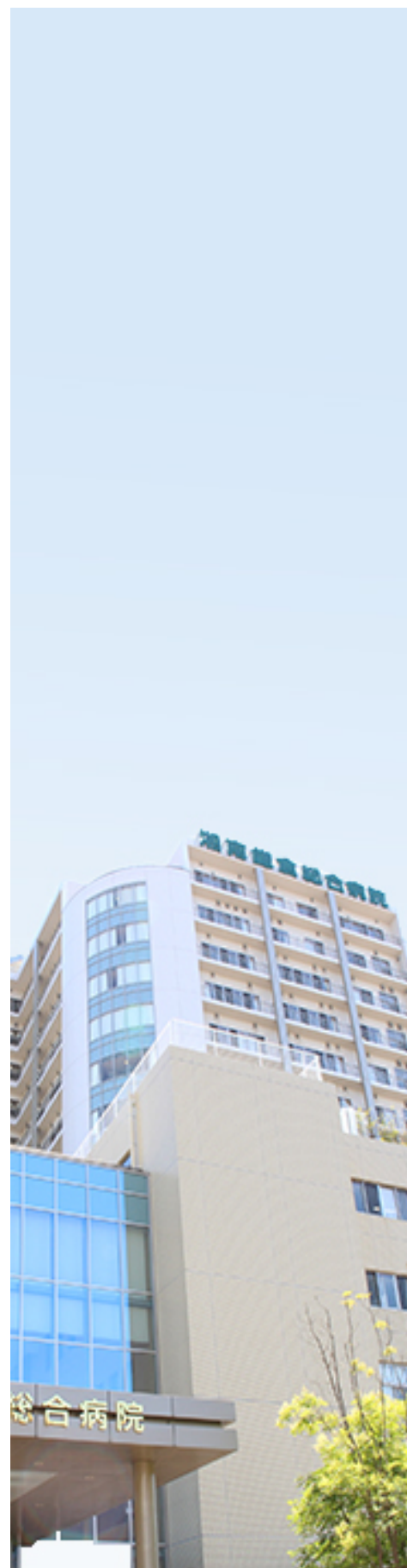
これまでデバイスはExcelで管理していましたが、Jamf Proなら、これだけで台帳管理を行うことができます。もちろん、項目の追加も可能。現在はExcelにあった項目をJamf Pro内に作成して管理しています。

< 管理しているデバイスの一覧表示 >

iPadを一覧表示することができるのですが、その際、バッテリーの残量やインベントリのアップデート状況も分かるのが便利。一覧表示を見ながら、そのiPad管理者に充電やアップデートを促すことができます。

< 紛失しても簡単に発見 >

普段、私自身はiPadに触れる機会が少ないのですが、離れた状況下でも管理できるのがJamf





Proの魅力です。例えば、iPadが紛失してもJamf Proを通じて「iPadを紛失しました、見つけた方は電話ください」と私から画面にメッセージを出せば、5～10分後には連絡がきます。Jamf Proで管理していれば、iPadを紛失することはないでしょう。

<アドレスバー非表示でWebサイトへアクセス>

当院では対応や食事など、退院される患者様にアンケートをお願いしています。しかし、これまでは紙で運用していたため、回収作業やExcelに入力する手間など、煩雑な作業に頭を悩ませていました。そこで、アンケートの効率化を図るため、集計の手間が省け項目変更も手軽なWebフォームでの実施を決定。まずは、新型コロナウイルス感染症の患者様が入院されている仮設専用病床からスタートすることになりました。Webフォームになれば、紙からの感染リスクも軽減できます。

実は患者様向けのiPadへWebブラウザAppをインストールしていませんでした。しかし、所定のサイトのみアクセスをしてもらえるように、JamfのMDMでiPadデバイスのホーム画面へWebクリップを配布しました。配布時にはWebサイトのアドレスバーを非表示にしました。これによって、患者様は迷うことなくスムーズにアンケート回答サイトへアクセスすることができました。こうした設定を会議中に行ったこともあって、その場の医療スタッフからは「すごい」という雰囲気伝わってきました。実際、その日は一日中チャットを通じて「あんなことをやりたい、こんなこともやってみたい」という話題で持ち切りでした。

● 使い方で工夫している点

当初は患者様のニーズに合わせ、さまざまなアプリのインストールをしていたのですが、人数が増えると収集がつかなくなるため、現在、患者様のiPadはビデオ通話アプリのみで運用しています。医療スタッフ向けiPadは、患者様に寄り添った医療業務が行えることを第一に、アプリのリクエストがあれば個別にインストールして対応しています。

新型コロナウイルス感染症から職員を守れている

当初の目的である「非接触コミュニケーション」を達成できたのがなによりです。iPadにインストールしたビデオ通話アプリを通じ、患者様と医療スタッフが顔を合わせて会話することができます。さらに現在では、スタッフ間でのコミュニケーションにも寄与しており、多くの医療スタッフが積極的にiPadを活用しています。

これも、Jamf Proによる一元管理と、患者様向けと医療スタッフ向けのiPadを間違えることがないデバイス設定のおかげだと思っています。Jamf Proがなかったら、こんなに上手く運用できていなかったでしょう。

現時点では職員から新型コロナウイルス感染症の陽性が一人も出ていません。(2020年8月19日現在)。これにはさまざまな要因があると思いますが、iPad&Jamf Proの効果も一因だと考えています。

Jamf のサポートに期待

● 今後の展開

iPad&Jamf Proの組み合わせで医療スタッフが働きやすくなるのが分かったので、さらに数を増やす案が出ています。また、Jamf Proが入っていないiPadに対しては、コロナ禍が落ち着いてきたらJamf Proでの一元管理を提案してみようと考えています。

医療機関は、なかなかIT化が普及しにくい場所ですが、今回のiPad&Jamf Proでかなり前進したと思っています。頼りになるJamfのサポートに相談させていただきながら、これからも当院にとって最適なITを模索していきたいですね。